

第 18 回大会アンケート結果

第 18 回大会にご参加の方からの感想を一部抜粋してご報告いたします。

また、アーカイブ配信について、これからでも申し込みできないかというお問い合わせを頂きました。そこで、本日より、11 月 30 日までアーカイブ配信をご希望の方の追加募集を行うことといたしました。

研究会の HP より、お申し込み頂けます。配信は 12 月中頃の予定です！

<https://www.sp-c.org/tournament>

お申し込みをお待ちしております！

<自由報告会>

■ 演題一覧

演題1 「苦しみ」を抱える新人看護師への支援を通しての気づき
～看護部教育主任の立場から～
発表：村田祐美子(福岡大学筑紫病院 看護師)

演題2 認知症の人の意思・意向は日常会話に溢れている

発表：川野真代(株式会社 CARE & SONS グループホームよかよかん管理者)

演題3 ケミカルコーピングに潜在するスピリチュアルペインとそのケア

発表：山崎由香(金沢古府記念病院 薬剤師)

感想 一部抜粋

- ・ 援助的コミュニケーションについて学ぶ事ができ、日頃のケアにも活用したいと思った
- ・ 意識の志向性、コーピングストラテジー、ケミカルコーピングなどについて学びました。傾聴、反復について理解できました。
- ・ 認知症患者から、私たちは見定められていることを意識しながらケアをしていきたいと思いました。
- ・ 新人や後輩の支援について、非常に参考になった
- ・ 薬剤師の方もスピリチュアルケアができると、痛みのアセスメントがより患者さんにとって最適なものとなるだろうと思う。また、キュアとケアが同時にされることによって患者さんの苦しみが軽減するためには効果的だと思う。
- ・ 援助論を用いた医療、福祉の現場教育の普及が推進される可能性を感じた。
- ・ 意識の志向を新人看護師の苦しみに向けた事例は、今後の新人看護師教育に役立てたいと思いました。



<ランチオンセミナー>

「これまで/今/これからのわたくし ～対人援助・スピリチュアルケア研究会とともに～」

座長:梶原旬矢 ありま鍼灸院 院長

登壇者:大橋洋平 JA 愛知厚生連海南病院 緩和ケア内科医師

感想 一部抜粋

- ・先生の体験を講演していただき、がん患者の理解が深まった。
- ・講師先生の話し方がユーモアたっぷりで、癌サバイバー経験の話が分かりやすかった
- ・先生付けが必ずしも好まれるとは限らないことが再確認できた。一度でも苦しんだ経験があるなら、「ひとりの人」として認識してもらいたいものだろうと思う。
- ・肩肘張らない語り口は、大変な道のりを来られたからこそそのものと感じました
- ・聴いてもらおうと生きる力が湧くことを大橋さんに教えられた。

<パネルディスカッション>

パネルディスカッション

医師の歯科医の苦しみ

—— パネルディスカッション「医師・歯科医のスピリチュアルペイン」タスクフォース ——

石井浩二…長崎大学病院・緩和ケアセンター 小玉哲史…いまきいれ総合病院・緩和ケア内科
坂元昭彦…鹿児島厚生連病院・消化器外科
澤田弘一…鏡野町国民健康保険上齋原歯科診療所・歯科
末次隆行…南風病院・呼吸器内科 刀塚俊起…真生会富山病院・血液内科
濱田朋紀…鹿児島大学病院・産婦人科 松下格司…いづろ今村病院・緩和ケア内科
的場康徳…鹿児島大学大学院・消化器外科学

感想 一部抜粋

- ・医師が苦しみを語ることは、他の大会では無いセッションだと思います。
- ・ドクターの苦しみを聴くことができてよかったです。その中で自身の看護師としての苦しみにも振り返っていきたいと思いました。話の内容もとてもわかりやすくてすごく心に残りました
- ・ドクターが置かれた状況,そこから来る苦しみというものが本当によく伝わった.こんな過酷な状況で様々な決断をしているのかというのはとても聞いていて胸が苦しくなりました
- ・医師も、苦しみを抱えながらも、自律存在の回復、関係存在の回復などに取り組んでおられ

ることを伺って、親しみが持てた、というか、偉い方だという見方に加え、親しみが持てます。こんな先生に見てほしい！

- ・医師の苦しみがこれほど深いとは、衝撃的でした。それを医師が分かって、乗り越えている報告も言語化してもらえてよく分かりました。他の職種でも同じような対策ができるかもしれないと思いました。
- ・医師もまた一人の人間として苦しみや葛藤を抱えていることがリアルな言葉を聞くことで知ることができたし、より身近な存在に感じた。看護師としては患者の苦しみに意識が向きがちだが、医者 of 苦しみにも意識を向ける視点を持ちつつ、チーム医療の中でお互いの役割を發揮し合えるような対話ができるといいと思った。
- ・医療者がキュアの限界に直面して体験する苦しみを具体的に話していただけて、苦しみを語る場と聴いてくれる他者が援助者の自律を支えることが分かった。

<シンポジウム>

「触れるケア・聴くケア ～会話記録を用いた探究～」

司会:長久栄子:真生会富山病院 緩和ケアセンター センター長補佐

講師:坂井明弘 株式会社 CARE&SONS 地域密着型複合ケアホーム よかよかん代表

会話記録提供者:有馬修美 社会福祉法人大一会 障がい者支援施設 星空の里 施設長

感想 一部抜粋

- ・触れるケアの本質に 近づいたと思います。
- ・一般的な会話記録に比べると、会話以外の部分の描写がとても繊細で、挑戦的な試みの中で作られた会話記録だと思いました。
- ・触れることの意味以前に、言葉ではなくて触れることを通して援助の関係性をどう築くか、意識の指向性を本人の苦しみに向けて、「待つ」ことの重要性、を、まざまざと見せつける素敵な会話記録でした。
- ・何故何をどのように触れるかがケアにつながるということと理解しました。触れるということが日常の行為であるだけに、気を抜けないなと思いました。
- ・触れるケアがあってこそ、語るケアも生きてくる。身体の緊張とか不安定とかへの援助、その意味付けが素晴らしかった。あと、講師の語り口と笑いを誘いつつ、上手に聴いている人に考えさせてくれて素晴らしいと思った。
- ・改めて「触れるケア」について考える機会になった。何気なく行っている「触れる」ことをあれほど考え言語化する機会はなく、意識化する機会もあまりなかった。ですが、それを言語化することが看護の本質なのではと思いました。



第18回大会 全体感想一部抜粋

- ・明日からの業務に役立ようと思いました。
- ・現場での実践、自身の行為を意味づけ言語化することの大切さに改めて気づかされましたこれから多職種での意見など聞けたらと思います。
- ・患者の困り事への見方が変わった。苦しみに気づき援助的コミュニケーションを行っていかうと思った
- ・自分を振り返るととても良い機会となりました
- ・触れるケア、聴くケアの相違点と共通点について考える機会をいただきました。共通点については、どちらのケアも関係の力で苦しみを和らげ、軽くし、なくする援助なのだということが、会話記録の事例や参加された方達の実践を通した語りのなかから、自分なりに理解を深めることができて有意義な学びでした。
- ・年に一度、初心に戻ります。研修を受けているからこそではありますが、よく分かり、感動しました。ありがとうございました！
- ・人との「つながり」を感じるととても温かみのある大会だったと思います。援助を志す同士がこんなにもたくさんいることにとても勇気づけられる思いでした。志を共にするもの同士はこうも簡単に打ち解けることができるのだと発見もありました。
- ・久しぶりの大会参加でしたがとても元気を貰えました。参加されている領域、職種が増え、対人援助の必要性が広まっている実感でした。私たちは、人と人で繋がっております。分かってくれる他者に巡り会えることは生きることの意味があり、専門職として誇りを持ち続ける事ができます。村田理論を学んで良かったと思ってます。有難うございました。
- ・とても感動しました、同じ思いを共有している感じがして臨床に向かう勇気と元気を得られました
- ・ひとつひとつのセッションで、思索が深まる大変有意義な充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。



特定非営利活動法人
対人援助・スピリチュアルケア研究会